

広 告

「大きく育て」の 願いを込めて

石狩湾漁業協同組合浜益ホタテ漁業部会は、3～4月がホタテ漁の最盛期。浜益漁港西沖合い10km付近に敷設された養殖施設で育ったホタテが、稚貝(3～4cm)や半成貝(10cm前後)としてオホーツク地域や岩手・宮城県へ出荷されます。その地で地まきや養殖され、成貝になって流通したり、半成貝の加工品として流通するのです。

日本海沿岸のホタテ漁はそのほとんどが養殖で、市内では厚田区でも盛んです。

浜益のこの施設は5km四方ほどの大掛かりな施設として、毎年約2億円の水揚げ高を維持しています。

「昭和54年に養殖を始めてから、水揚げ高の水準は変わりません。取引先が安定していることの証しでしょう」と、漁協浜益支所長の和田郁夫さんの顔もほころびます。

今後の飛躍が期待される、石狩市の誇るホタテ漁です。

水深40～60mの海中から引き揚げられた養殖かごを船のクレーンから下ろし、ベルトコンベヤーに移す作業は素早く行われます。中にはホタテがびっしり。



汚れを取り除いたホタテは水槽に移され、さらに酸素を送ってきれいに生かされます。水槽の中でびよびよん飛び跳ねるホタテは、なぜかわいい!



成貝は1枚100円程度で小売りもできます。

<浜益ホタテ漁業部会>下記にて通年購入できます。

藤川春彦さん(部会長) ☎79-3183 田中一房さん ☎79-2207
見吉志美男さん ☎79-2259 竹谷徳男さん ☎79-3663

塵芥の山

縄文遺跡の主役、「貝塚」は、幾世代にわたって積み積もった「塵芥の山」。考古学に興味のある方には垂涎の山でもある。しかし、現代社会において不法の塵芥山を、後世に伝える文明の使者役と称えることはできない。

今年も新港地区・防風保安林・河川敷、はたまたごみステーションの脇と、やられっぱなし。畏れとモラルの関係を論じてみても、ビデオカメラやパトロールも塵のごとき効果。

江戸は、近世において世界最大の都市であった。塵芥と糞尿の回帰システムが優れていた結果らしいが、都市の容量を供給量ではなく処理能力としたことには学ぶべきものがある。

現代人は進歩と、荒廃の現実のなかにあつて、無意識であれ意識的であれ、この問題の加害者と被害者との狭間に生きている。塵芥の山は私たちに、世代に存する原則を訴えている。

数百年後の言い訳として、処理容量を越える消費力が原因だったと弁解することになる。今年もまた苦情に応じ塵芥処理をするだけなのか。



(市長)